



日本のアルファベット、いわゆるカタカナの字付(『日本風俗備考』「科学」章扉挿絵)



菊の紋章と五三桐紋が箔押しされた『日本風俗備考』の表紙(革装)



日本略図、名高い富士山を背景に(『日本風俗備考』「地理学」章扉挿絵)

表紙図版解説

ファン・オーフェルメール・フィッセル『日本風俗備考』1833年刊所収

J. F. van Overmeer Fisscher. *Bijdrage tot de kennis van het Japansche rijk.*

Amsterdam: J. Müller, 1833.

裕福な家庭に育ったフィッセルは、19歳の時に初めてアジアへ渡航し、1822年から1830年の間に数回日本へ渡り、出島オランダ商館において事務員や倉庫係として長期間勤務した。1822年に商館長ブロンホフに随行して、江戸参府に参加した際に、フィッセルは東海道の各地で日本の工芸品や書籍、絵画などの収集に熱中し、日本文物の充実したコレクションを構築した。1830年にオランダへ戻ったフィッセルは、自邸でコレクションの展示会を行い、詳細な目録も作成した。彼のコレクションはオランダ王家によって購入され、後にオランダ国立民族博物館に移り、現存している。フィッセルが1833年に再びアジアへ渡る直前に刊行した『日本風俗備考』は、このコレクションの図像的情報を元に日本文化を民族学的観点から記述したものである。また、同書では出島および江戸参府におけるフィッセルの体験についても生き生きと語られている。日研所蔵外書。同書は日研貴重書データベースに収録されていて、オンラインで閲覧することができる。
(解説：フレデリック・クレインス)